

# 山形県内 各水系流域治水協議会及び 各河川大規模氾濫時の減災対策協議会 合同協議会開催状況

令和6年9月2日  
山形河川国道事務所  
新庄河川事務所  
酒田河川国道事務所  
山形県

## 1. 概要

- 令和6年7月25日からの大雨により、堤防の決壊や越水等による氾濫被害が発生したことを踏まえ、今後、『流域治水対策』を集中的に推進するため山形県内各水系の流域治水協議会等を開催。今後、最上川下流・中流(最上地域)緊急治水プロジェクト策定のため、関係機関等とさらなる連携を図ることを共有した。

## 2. 開催日／実施状況

- 日時: 令和6年9月2日(月)14:00～16:00
- 場所・会議形式: 新庄河川事務所 大会議室、酒田河川国道事務所 大会議室(対面・WEB併用会議)
- 出席者: 国・県・市町村・(株)東北電力・土地改良 流域の64機関、約100名が参加

## 3. 協議会内容

- 議事内容
  - (1) 令和6年7月25日からの大雨による気象概況
  - (2) 令和6年7月25日からの大雨による国管理河川の被害状況
  - (3) 令和6年7月25日からの大雨に係る県管理河川の対応状況
- 意見交換
- 情報交換
  - 今後の流域治水対策プロジェクトのスケジュールについて



新庄河川事務所 会場



林 河川部長



矢口 酒田市長



加藤 戸沢村長



元木 鮭川村長



酒田河川国道事務所 会場

# 山形県内 各水系流域治水協議会及び 各河川大規模氾濫時の減災対策協議会 合同協議会開催状況

## 首長からの意見

- **鶴岡市(危機管理監)**: 今回の大雨対応で得た教訓をもとに、避難情報発令のタイミングや住民への周知方法について検討を進めていきたい。
- **酒田市(市長)**: 国土交通省、県等からのホットライン、また、TEC-FORCE、県、市町村からの職員応援等非常にありがたかった。今回被害が大きかった荒瀬川などの対策について、国・県と一緒に取り組んでいきたい。
- **新庄市(市長)**: 初めて緊急安全確保を発令した。最上川治水対策プロジェクトを強化し、抜本的な治水対策が必要。市内に遊水地をもっとつくれるのではないかと考えている。
- **尾花沢市(市長)**: 現在復旧に向けた対応を順次行っているところで、国、県に関わる部分についてはお力添えをいただきたい。新たなハザードマップの更新作業を行っており、今年度中に冊子で全戸配布する予定。また、WEB版ハザードマップを構築し、情報の利便性や多重化に努めているところ。
- **南陽市(市長)**: 私は全国で水害を受けた市区町村が集まる水害サミットの世話人の代表を務めており、被災経験された首長の皆さんが、知見を共有しその後の減災対策に生かすものである為、全国的にも大きな災害が頻発していることから、ぜひ参加していただいて、対策の参考としていただきたい。
- **山辺町(町長)**: 普段からできる備えをしっかり行い、安全安心なまちづくりを進めるとともに、当町として非常に心配な内水氾濫等について、排水ポンプを含めた取組ができるようなことも含めて検討したい。
- **中山町(町長)**: 農業排水路に生活排水が流れ込んでくる状況も見られる。保水能力が少なくなっている状況下において、森林問題も含めた治水対策の検討が必要。
- **河北町(町長)**: 今年7月に山形県、山形河川国道事務所とともに槇川流域の治水勉強会を立ち上げた。お互いに連携を強めながら特に槇川流域治水対策について、実効ある対策に繋げたい。
- **大石田町(町長)**: 災害発生時のタイムラインを検証し、内水対応力の強化を図るため、国や県と連携しながら、被害の軽減に努めていく。川と町を活性化するため、町の資源を生かし、地域の活性化や地域ブランドの向上の実現を目指す。
- **金山町(副町長)**: 災害に不慣れな当町にとって、有事のホットラインが大変ありがたかった。関係機関と市町村間とのホットラインをより活用できれば、さらに迅速な対応ができると考えている。

- **最上町(町長)**: 単に災害復旧だけでなく、今後を見通した支援策と併せて、国、県、市町村が維持管理などを含めた形でのソフト対策支援等充実していただきたい。
- **舟形町(町長)**: 内水対策が難しくなっている。内水対策について対策の方法等をご指導いただきたい。
- **真室川町(町長)**: 令和3年度から復旧事業、浚渫事業を行っているが、その効果を含め国、県と協力体制を取って進めていきたい。現在行っている緊急浚渫推進事業債は令和6年度までの時限つきのため、期間を延長してほしい。
- **大蔵村(村長)**: この度の水害においても国土交通省の排水ポンプ車手配にご尽力いただいた。地方公共団体による排水ポンプ等について、整備を支援するための緊急自然災害防止事業債を令和8年度以降も継続をしていただきたい。
- **鮭川村(村長)**: ダムの事前放流時などもう少し早い段階から取り組むことはできないのか検討して欲しい。また、急な地形での田んぼダムは難しい。総合的に流域治水の取り組みについて考えていく必要がある。
- **戸沢村(村長)**: 新庄河川事務所からの確かな情報提供が、人命救助に大変役立った。蔵岡地区・古口など村特有の地形に応じた対策について、国・県・関係市町村とも連携協力して検討を進めていきたい。
- **高島町(町長)**: 住宅地における内水対策として調整池などのハード対策チームを結成した。また、この度の水害で道路冠水後に避難することの危険性や早期避難の重要性を再確認し、他自治体の取り組みを参考に対策を進めていきたい。
- **川西町(町長)**: 令和4年豪雨を被災以降、国土交通省の実証実験であるワンコイン浸水センサや公開型GISの導入によるDX化の推進と併せて関係機関との連携による防災体制の強化に努めている。
- **三川町(町長)**: 最上川の支川京田川の水位上昇が非常に早く、特に中下流域での流下能力等に課題があることから、関係機関が一体となって対策に努めていく必要があると感じた。
- **庄内町(町長)**: 今後の整備の中で、どのような整備をすれば一番効果的なのかを国土交通省、気象台、山形県等と一緒に考えていきたい。
- **遊佐町(町長)**: 二級河川月光川と高瀬川の水位について、ホットラインで迅速に情報提供いただいたことで避難指示を出すことができた。また、月光川のすぐそばに学校や住宅地があるため、洪水を防ぐべく築堤や河道掘削など、今後も継続して実施していただけるよう切にお願いしたい。